

理事長就任のご挨拶

同志社グリークラブOB会
理事長 高梨 純 (S62卒)

こんにちは、昭和62年(1987年)卒セカンドテナーの高梨 純でございます。6月の総会にて、グリークラブOB会の理事長に選任されました。理事長という重責を担うにあたり、OBの皆様には、格別のご支援とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

先般、森島会長より、直近約3年の運営理事会の活動概要についてお伺いいたしました。また現役支援担当の山下(秀幸)理事より、現役支援の現状についてお聞かせ頂きました。3年に及ぶコロナ禍で、現役の活動が停滞し、当初部員は大きく減少しました。OB会が22年、23年と現役の新入生勧誘活動を強力に支援したこともあり、今年は部員が50名を超えるまでになりました。現役メンバーの学生生活、クラブ活動に対する考え方も多様で大きく変容する中、彼らの価値観を手探りで探りながら、技術面、マネジメント面の双方のバックアップを継続した若手現役支援担当メンバーの努力には、本当に頭が下がります。

OB会の存在目的は、この現役支援と会員相互の親睦が大きな柱となります。会員は、1950年前後のご卒業された、御年90歳を超える大先輩から、現役を卒団したばかりの25歳前後メンバーまで多種多様な世代に跨がっています。世代によって、バックグラウンドにある大学生活、グリークラブに対する見方、価値観、その後の社会人生活、キャリアの重ね方により考え方も多様です。同じ価値観で、何かを一つにまとめ上げることは、なかなか厳しいのが現状だと認識しています。

来年グリークラブは、創立120周年を迎えます。この伝統をさらに継承するために、OB会は今迄以上に、会員から見て、また現役から見て「魅力的」で「サステイナブル(持続可能)」な組織を追求しなければなりません。特に、昨今の会員動向の実情や、今後、運営理事会の主体を平成世代へ繋ぐことを考えるとき、平成世代から見て「果たして、魅力がある組織」なのか、大きなテーマになると考えています。世代によって千差万別な個性を互いにリスペクトし、どうしたら活かし合えるのか?運営理事会は、新たな会員相互の親睦の形について、真剣に考え、その実現に向けて行動したいと考えています。

とは言え、どうすればよいか「こたえ」が見つかっているわけではありません。OB会員の皆さん、グリークラブ現役の皆さんと会話する中で、ヒントやお力添えを頂きながら、その「こたえ」を「未来志向」で模索し、見出してゆきたいと考えております。

どうぞ、ご支援、ご鞭撻、重ねてよろしくごお願い申し上げます。

【自己紹介】

S62卒、現役の時の役職は、幹事長。同年、松下電器(現パナソニック)に入社し、主に大手住宅会社向け開発営業を担当し、この5月末で定年を迎えました。6月から継続雇用でパナソニック(株)エレクトリックワークス社のDEI推進室に在籍。DEI(ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン)という新しい組織風土を根付かせる改革の企画推進と、兼務で社内キャリアカウンセラーの仕事もしています。

【合唱活動】DOBS2020(関西)で活動中。

